

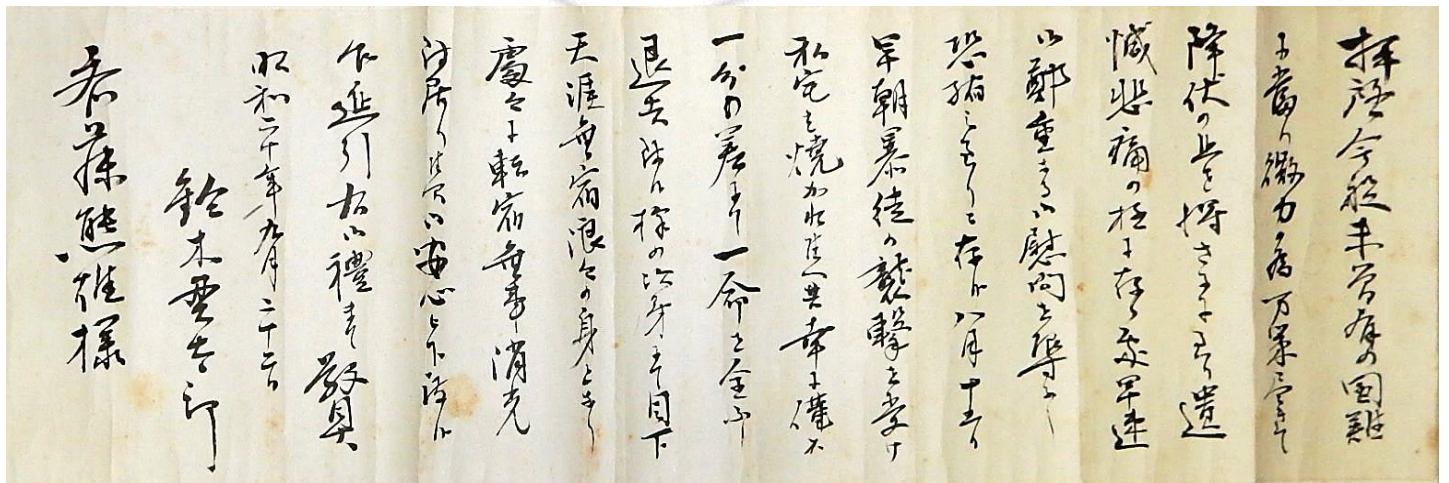
文書館の逸品3 「鈴木貫太郎書状」

展示期間 令和7年9月2日(火)～10月30日(木)

〔鈴木貫太郎書状〕（八月十五日暴徒襲撃慰問の礼状）

昭和20（1945）年9月22日

昭和20年4月7日、鈴木貫太郎は第42代内閣総理大臣に就任しました。同年8月15日早朝、日本の降伏阻止・徹底抗戦を主張する国粹主義者たちの武装集団は、首相官邸を襲撃後、鈴木や平沼枢密院議長らの私邸に火を放ちました。鈴木は、警護官に救出され、同日鈴木内閣は総辞職しました。その後、鈴木は親戚宅などに身を寄せ、月日を送っていました。この書状は、旧友・齋藤熊雄の慰問に対する礼状です。 前橋市・齋藤忠一家文書（P09506 No.128）



（釈文）「鈴木貫太郎書状」
（八月十五日早朝暴徒襲撃慰問の礼状）

拝啓 今般未曾有の国難に当り、微力の為万策尽きて降伏の止を得ざるに至り、遺憾悲痛の極に存候処、早速御鄭重なる御慰問を辱ふし恐縮之至りニ存候、八月十五日早朝暴徒の襲撃を受け私宅を焼かれ候へ共、幸に僅か一分の差にて一命を全ふし退去致候様の次第にて、目下天涯無宿浪々の身となり処々に転宿無事消光致居り候間、御安心被レ下度候乍ニ延引、右御礼まで 敬具
昭和二十年九月二十二日
鈴木貫太郎
齋藤熊雄様

鈴木貫太郎

第42代内閣総理大臣
(任 昭和20年4月7日～8月17日)



出典：国立国会図書館 近代日本人の肖像
歴代首相等写真【憲政資料室収集文書 1142】

生没年 1868～1948

父由哲は関宿（現千葉県野田市）藩久世家の飛び地（現大阪府堺市）の代官で、後に群馬県職員となり、前橋に移住した。貫太郎は桃井小学校（現前橋市）を卒業後、群馬県中学校（現在の県立前橋高校）に入学。その後、海軍兵学校に入学し、日清・日露戦争では水雷艇や駆逐艦を指揮して活躍し、大正3（1914）年に海軍次官、同12（1923）年に海軍大将、翌年に連合艦隊司令長官、その翌年海軍軍令部長となる。昭和4（1929）年侍従長（兼枢密顧問官）として宮中に入り、昭和天皇の側近として仕える。在職中の昭和11（1936）年の二・二六事件で、青年将校等に襲われ瀕死の重傷を負う。

昭和20年4月5日に総辞職した小磯國昭内閣の後継として、枢密院議長であった貫太郎が4月7日に内閣を組閣する。昭和天皇の強い懇願があったといわれている。この時、貫太郎は満77歳。終戦直後に内閣総辞職。昭和21年、郷里である関宿町に帰り、昭和23年4月に死去。

群馬県立文書館

【開館時間】 午前9時～午後5時（観覧無料）

【休館日】 月曜日、国民の祝日、月末整理日、特別整理期間

前橋市文京町 3-27-26（二子山古墳の西隣） TEL:027-221-2346